

ドイツの青少年芸術学校に関する研究 —先行研究と教育理念の変遷に関する調査を中心に—

山成 美穂（初等教育学科・准教授）

I. 研究の目的

本研究は、ドイツ学術交流会 DAAD、POLA 美術振興財団、文化庁の助成を受けて2001年から2010年まで取り組んだドイツの青少年芸術学校に関する研究に継続するものである。ドイツの青少年芸術学校（Jugendkunstschule）は、児童（乳幼児を含む）・青少年を対象とした公的資金援助を受けた芸術教育の社会教育施設として1960年代に発祥した施設である。現在では、ドイツ各地で次々と数が増え、より一層の活発な展開を遂げている。管見の限りでは、日本におけるドイツの青少年芸術学校に関する先行研究は、数の乏しいものである。自身の2001年からの研究では、その役割、可能性、実情について、現行の青少年芸術学校での実践調査、指導者の立場をもつアーティストとの対話、ベルリン芸術大学での文献調査、旧東地区と旧西地区の青少年芸術学校における芸術教育の違いについての実践調査を行なった。その研究の結果、ドイツの青少年芸術学校がどのような教育を行い、地域社会に受け入れられているかの包括的な現状把握と同時に、学校との密接な関わりによる芸術教育の発展性と、その教育効果が確認できた。その後のドイツでは、PISA 調査後の長期的な教育改革や、移民・難民の受け入れ政策等、新たに社会の大きな変化に直面している。また青少年芸術学校運営者の世代交代の時期にも差し掛かり、ドイツの青少年芸術学校の状況は転換期を迎えている。今回の研究では、2010年移行の青少年芸術学校の状況を調査研究するにあたり、先行研究の整理と、ドイツにおける児童・青少年に対する社会教育としての芸術教育の理念の変遷について調査・検討したいと考えている。

II. 研究計画

本研究は、当該研究に関する文献調査、現地視察とドイツの青少年芸術学校関係者へのインタビュー・アンケート調査を2年間で行う予定である。各年度の研究概要は下記の通りである。

1. 2019年度の研究概要

(1) 日本における文献調査

青少年芸術学校に直接的に関係する日本語の文献資料は乏しい。研究の背景を確認するために青少年芸術学校の教育活動に関連する文献を調査する。

(2) ドイツにおける文献調査と視察調査

①青少年芸術学校の歴史が長いノルトライン・ウェストファーレン州を訪問し、青少年芸術学校・文化教育施設連盟（Bundesverband der Jugendkunstschulen und

kulturpaedagogischen Einrichtungen e.V./BJKE) の協力を得て、過去10年間を中心としたドイツで刊行された青少年芸術学校と文化教育に関する研究資料、書籍、ジャーナルに関する情報を収集する。

②ドイツ滞在時に訪問可能な現地の青少年芸術学校を訪ね、現状を視察する。

2. 2020年度の研究概要

(1) 2019年度に収集した文献の整理と分析

2019年度に収集した文献資料について、青少年芸術学校との関連性を整理する。

(2) ドイツにおけるインタビュー・アンケート調査

青少年芸術学校関係者へのインタビュー・アンケート調査。青少年芸術学校における芸術教育の理念と現状について異なる立場の見解を調べ、文献調査による内容と照合し考察する。

Ⅲ. 研究の進捗状況：2019年度の成果報告

1. 文献調査の状況

青少年芸術学校の関連資料として、

- ①ドイツの青少年芸術学校に関する文献
- ②ドイツの幼児教育としての感性教育に関する文献
- ③ドイツの学校教育としての美術教育に関する文献
- ④PISA 調査後のドイツの教育改革に関する文献
- ⑤その他のドイツにおける芸術教育に関する文献

の収集を行った。①におけるドイツの文献は、日本で調査・入手が困難であるため、2019年7月29日から8月6日までドイツのミュンスターに滞在し、青少年芸術学校・文化教育施設連盟(BJKE)の会長 Peter Kamp 氏、ミュンスター青少年芸術学校(Kreativhaus e.V) 学校長 Detlef Heidkamp 氏の協力により内容を選定し、入手することが出来た。

〔参考文献一覧参照〕

2. ドイツにおける視察調査

文献調査の滞在期間中に訪問可能な青少年芸術学校として、ミュンスターにある青少年芸術学校の視察を予定していたが、サマープログラムが行われていない期間だったため、サマープログラムの見学が可能な、デュッセルドルフとケルンにある青少年芸術学校を視察した。

(1) デュッセルドルフの青少年芸術学校

名称：Akki - Aktion & Kultur mit Kindern e.V.

住所：Siegburger Str 25,40591 Düsseldorf

視察日：2019年8月2日

デュッセルドルフの青少年芸術学校 Akki は、通常の定期的な芸術の授業は行わず、造形美術からマルチメディア、演劇などの様々な表現活動を主とした芸術教育のためのプログラム週間や、休暇期間のワークショップなどを開催するために、デュッセルドルフ市に

暮らす全ての児童・青少年のために開かれている。緑豊かな公園の中に建てられた施設は、既存の建物を再利用するのではなく、市の助成金により **Akki** のために設計されている。(図1) 施設の内部には、造形美術工房、写真表現や映像表現のためのメディア工房、様々な衣装室、音楽コンサートから演劇、ダンス公演など多目的な講演活動に利用可能なホールからスタッフのミーティングルーム、パーティールームなどの充実した設備が装備されていた。児童・青少年の主体的な興味とモチベーションを軸にした表現活動を支援するために、プログラム内容は利用者の要望を大切にして企画されていることが特徴である。

今回の訪問では、施設の内部見学をさせていただくと同時に、人物の撮影を一切行わないという約束で、近隣の野外で行われているサマープログラム「ミニデュッセルドルフ **Dusseldorfchen**」を見せていただくことが出来た。このプログラムは、子ども達が自分たちで街を運営する取り組みであり、夏休みの期間限定でつくられる仮設都市である。野外に、木材やテント、プレハブ小屋を設置し、そこで様々なお店や施設などを子ども達が自主的に企画している。その街には、子ども達による市庁舎(図2)が設置され、市長も選出される。このプロジェクトを通して子ども達自身が、街や都市のあり方について自由な考えで発想し、主体的に自分自身のクリエイティビティを活性させながら社会参加しようとする機会になっていた。子ども達は、様々な学校から参加しており、異年齢が混ざり合う中、笑顔や活発な会話が多く、積極的に楽しんでいる様子だった。



図1



図2

(2) ケルンの青少年芸術学校 Jugend-Kunstschule Rodenkirchen e. V.

名称：Jugend-Kunstschule Rodenkirchen e. V.

住所：Kierberger Str. 2, 50969 Köln

視察日：2019年8月5日

ケルンのローデンキルヘン青少年芸術学校 (**Jugend-Kunstschule Rodenkirchen e. V.**) は、造形美術の教育に特化した青少年芸術学校で、放課後の社会教育施設として定期的に毎日開催される通常授業の他に、休暇期間を利用したプロジェクトが行われている。デュッセルドルフの **Akki** と同様に、緑豊かな公園の内部に設置されており、市からの助成金を得て運営が行われている。この学校は、開設当初はケルン市内にあるショッピングモールの中にあるカルチャースクールの一部を利用する形で運営されていたが、地域に根ざした美術教育活動が認められて自然の多い公園の中にある小さな校舎(図3)に移転し、室内と

野外の両方で美術教育が可能な環境に整備されていた学校である。

今回の訪問では、校舎内の設備環境とサマープロジェクトの一部を見学させていただいた。自然の多い風景や空気、風を感じながら美術制作に取り組むことが出来るように、雨天や冬の寒い時期には、透過性の高い可動式の屋根や壁面を利用して授業が出来る仕組みが工夫されていた。天気の良い日は室内だけではなくテントを使い、(図4) キャンプ場のような野外空間の中で制作活動が行われており、見学させていただいた日は、4つのアートプログラムが室内と野外で開催されていた。一つめは、色彩研究をテーマにした絵画とオブジェ制作(図5)、二つめは、タイルを用いたモザイクタイル制作、(図6) 三つめは、自家製織り機を用いた織物制作、(図7) 四つめは、泡状の色水を混ぜ合わせる実験プログラム(図8)だった。各プログラムに5〜6名くらいの子ども達が参加しており、リラックスした表情で集中して各自の制作活動に取り組んでいた。



図3



図4



図5

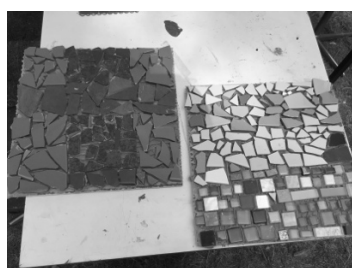


図6



図7



図8

IV. 今年度のまとめと来年度の研究にむけて

今年度は、過去10年間の青少年芸術学校の動向を把握する目的で文献収集を行なったが、予想以上の収穫が得られた。次年度の研究では、これらの文献をもとにドイツの青少年芸術学校の動向を探る当該研究の目的を果たしたいと考えている。また今回、文献調査だけではなく、現地の異なる特色を持つ青少年芸術学校を視察した。同じ州にあり、同じように青少年芸術学校としての助成金を得て、異なる内容の教育活動をしている状況を見学できたことが、リアリティを伴う現状把握に役立った。青少年教育の領域における芸術教育の可能性を問う上で、そのモデルケースの幅広さをあらためて感じさせられた。次年度は、次の3点を中心に現地関係者へのインタビュー・アンケート調査を実施予定である。①PI SA 調査後の終日制学校への移行による青少年芸術学校への影響について、②移民・難民

の受け入れによる青少年芸術学校利用者とカリキュラムの変化について、③青少年芸術学校運営者の世代交代による教育内容や制度の変化について。それをもとに文献調査の分析と照合し、考察する予定である。

【参考文献一覧】

ドイツの青少年芸術学校に関する文献

- bjke (2003), *Jugendkunstschule. Das Handbuch: Konzepte, Strukturen, Organisation. Ratgeber für kulturelle Initiativen und kulturpädagogische Einrichtungen*, LKD-Verlag
- Raimund Bartella (2003), *Jugendkunstschulen/Kulturpädagogische Einrichtungen als Elemente der kulturellen Jugendbildung in den Städten - eine Orientierungshilfe*, Deutscher Städtetag
- 山成美穂 (2005), 「学校外における児童・青少年の芸術教育:ドイツ・ベルリンのアトリウム青少年芸術学校における実践調査を中心に」, 『美術教育研究』, 11,
- 山成美穂 (2007), 「学校と学校外が重なる芸術教育現場についての一考察: ベルリン・アトリウム青少年芸術学校の「学校プロジェクト」の授業から考える」, 博士論文, 東京藝術大学大学院
- Uli Baer (2008), *Kulturelle Bildung für Kinder : der Elementarbereich der Jugendkunstschule Unna ; von Anfang an: musische Erziehung durch Tanz, Musik, Theater und Gestaltung*, Jugendkunstschule Unna
- Dolores Smith (2008), *Der Kunst-Code. Jugendkunstschulen im interkulturellen Dialog*, bjke e.V. und LKD-Verlag
- 生田周二、吉岡真佐樹、大串隆吉 (2011), 『青少年育成・援助と教育: ドイツ社会教育の歴史、活動、専門性に学ぶ』, 有信堂
- 森本昭宏 (2012), 「国際彫刻シンポジウムに見られる対話型鑑賞教育: ドイツの園児・小学生の活動を中心として」, 『埼玉学園大学紀要』, 12, 169-179.
- Hildegard Bockhorst, Vanessa-Isabelle Reinwand, Wolfgang Zacharias (2012), *Handbuch Kulturelle Bildung*, kopaed
- 新海英行・松田武雄 (2016), 『世界の生涯学習: 現状と課題』, 大学教育出版
- 文部科学省 (2018), 『諸外国の生涯学習』, 明石書店
- Lydia Rossel (2019), *Jugendkunstschulen, Kindermuseen und Abenteuerspielplätze*, Grin Verlag
- bjke e.V. (2007-2019), *Infodienst-Das Magazin fuer kulturelle Bildung*, Nr.84-Nr.132, LKD-Verlag

ドイツの幼児教育としての感性教育に関する文献

- 石津珠子 (1990). 「感性教育への期待: ドイツの初等教育における芸術教育のあり方から」, 『保育研究』, 11, 45-62.
- 石津珠子 (1991). 「創造的であること “Schule der Phantasie” の活動から」, 『保育研究』, 12, 83-86.

- ・石津珠子 (1992). 「感性教育,そして美的教育について : Aesthetische Erziehung の成熟」, 13,77-87.
- ・石津珠子 (2018). 「芸術教育論における美的教育について」, 『東洋英和大学院紀要』, 14, 17-25.

ドイツの学校教育としての美術教育に関する文献

- ・ヘルマン＝ブルクハルト (著), 堀典子 (訳), (1982). 『現代ドイツにおける美術の授業と子どもの絵』. 全国造形教育連盟
- ・堀典子 (1987). 「造形要素を重視した絵画指導のあり方 : 現代ドイツの美術教育の実践」, 『美術教育学』, 9,25-33
- ・廣瀬敏史 (2013). 「日本とドイツの造形美術教育の現状とこれから」, 『東海学院大学紀要』, 7, 269-278
- ・根元貴代・太田朋宏 (2017) 「グローバル化の中で美術教育の可能性を探る:ドイツ・ニュルンベルクの小学校における言語活動に力点をおいた授業実践を通して」, 『教育学研究』, 49, 273-280.

PISA 調査後のドイツの教育改革に関する文献

- ・久田敏彦 (監修), (2013). 『PISA 後の教育をどうとらえるか: ドイツをとおしてみる』, 八千代出版
- ・久田敏彦 (監修), (2019). 『PISA 後のドイツにおける学力向上政策と教育方法改革』, 八千代出版

その他のドイツにおける芸術教育に関する文献

- ・鈴木幹雄 (1999). 「ドイツにおける芸術学校の芸術教育学とその遺産について (一) : バウハウスにおけるカンディスキの授業とその芸術教育観を手掛かりに」, 『美術教育学』, 20,197-207.
- ・長谷川 哲哉 (2005), 『ミューズ教育思想史の研究』, 風間書房
- ・鈴木幹雄 (2014). 「現代ドイツ芸術教育学成立期にみる芸術教育学の表層面と実際 : 1960年代芸術教育学はいかに創られたのか,我々はそこからどのような芸術教育学的理解を学ぶことができるのか」, 『美術教育学』, 35,305-314.
- ・針貝綾 (2016). 「シュトゥットガルト教育実験工房のカリキュラムについて:バウハウス以前のドイツにおける美術工芸のための工房教育」, 『美術教育学研究』, 48,337-344.
- ・清永修全 (2016). 「芸術教育の新たな地平を求めて:ドイツにおける美的・感性的教育の新たな展開をめぐる幾つかの対話から」, 『東亜大学紀要』, 23, 29-41.
- ・針貝綾, (2017), 『ユーゲントシュティルからドイツ工作連盟へ』, 九州大学出版会
- ・清永修全 (2017). 「多元文化社会における芸術教育の可能性とその視座:近年のドイツにおけるいくつかの理論的展開について」, 『東亜大学紀要』, 25, 11-29.
- ・清永修全 (2018). 「岐路に立つ芸術教育:現代ドイツにおける芸術教育学と芸術の関係をめぐる論争について」, 『東亜大学紀要』, 26, 75-94.
- ・吉田武男 (監修), (2019). 『社会教育・生涯学習』, ミネルヴァ書房